

ブラジル 2024/25年度のオレンジ収穫量は37年間で2番目に少ない

[FreshPlaza 2025年4月11日](#)

2025年4月10日に柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)が発表した最新の情報によると、サンパウロ州とミナスジェライス州西南西部(トリアングロミネイロ地域)の柑橘類地帯における2024-25年度のオレンジの収穫は合計2億3,087万箱(40.8kg/箱)で終了した。この最終的な数字は、2024年5月に発表された当初予測の2億3,238万箱より0.65%少なく、前年度の合計3億722万箱と比較して24.85%の減少となる。

品種別の出荷量は、ハムリン、ウェスティン、ルビーが合計3,763万箱、バレンシアアメリカナ、セleta、パイナップル、アルボラーダが合計1,560万箱、ペラリオが7,470万箱、バレンシアとバレンシアフォーリャムルチャが7,599万箱、ナタールが2,695万箱であった。約1,494万箱がトリアングロミネイロ地域で収穫された。

好ましくない天候条件が収穫量減少の主な要因であった。長期にわたる干ばつと高温のほか、遅いものの旺盛であった4回目の開花が影響した。

2024年5月から8月までの降水量は予想水準を31%下回り、この期間の最高気温の平均は過去(1991～2020年)の平均を3～4℃上回った。

2024年5月から2025年3月までの柑橘類地帯の降水量は1,050mmで、過去の平均である1,305mmを20%下回った。ポトポランガ地域を除くほとんどの地域で、降雨量が平均を下回った。顕著な降水量不足は、ベバドゥーロ(749mm、-41%)、マタン(805mm、-39%)、サンジョゼドリオプレト(918mm、-26%)の各地域で記録された。

天候の問題にもかかわらず、4回目の開花は損失を軽減するのに役立った。この遅咲きの開花による果実は、2024年後半の雨の恩恵を受けた。

果実の平均重量は最終的に159グラムで、当初予測の169グラムを下回り、10年平均の163グラムよりも軽かった。最終的に1箱当たりの平均果実数は256玉であった。比較のために挙げると、ハムリン、ウェスティン、ルビーは1箱当たり平均283玉、その他の早生品種は257玉、ペラリオは253玉、バレンシアとフォーリャムルチャは247玉、ナタールは252玉であった。

累積落果率は17.8%で、5年間で最も低かった。品種別ではハムリン、ウェスティン、ルビーが10.6%、他の早生品種が13.9%。ペラリオが16.5%、バレンシアとフォーリャムルチャが21.6%、ナタールが22.6%であった。地域別落果率が最も高かったのは中部地域で20.5%、最も低かったのは北西部で13.4%であった。

未熟果の落下による総生産量の損失は5千万箱と推定される。カンキツグリーンニング病が主な原因であり、総落果率17.8%のうちの9.05%、つまり2,500万箱に相当した。その他の要因としては、ミバエ等の害虫が4.11%(1,200万箱)、自然及び物理的な落果が3.01%(800万箱)、カンキツ黒星病が1.11%(300万箱)であった。残りの200万箱の損失要因は、果皮のひび割れ、カンキツかいよう病、その他の病害等であった。

レポート全文は[こちら](#)